

長浜改革会議（第4回長浜市総合計画審議会）要点録

1 日 時 令和8年4月24日（金）13：45～15：35

2 開催場所 長浜市役所 3階 特別会議室

3 出席者 ○委員

岩寄会長、林誠副会長、磯崎委員、瀧澤委員（オンライン）、田邊委員、
中川委員、細川委員、松井委員、水上委員、吉田委員

○市出席者

浅見市長、未来創造部 和田本部長、米田次長

政策デザイン課 手崎課長、岸田課長代理、山崎係長、五十嵐主査

4 傍聴者 なし

5 次 第

（1）開会

- ・定数の確認
- ・配布資料の確認

（2）市長あいさつ

- ・本日は総合計画基本構想に記載する「めざすまちの姿」の事務局案を3案お示ししているが、会議の中で、1案に絞り込みをお願いしたいと考えている。
- ・昨年4月の諮問の際に、『「長浜市の未来図」を基本的なコンセプトとして、将来の「長浜市がめざすまちの姿」について、ご意見、ご提案を求めます。』とお願いしたところである。今回策定する総合計画は、中心（背骨）に据える「開かれたシビックプライド」という考えのもと、市民の力を基盤にしながら、市外で活躍されている「長浜ゆかりの方々」や、全国各地にあります企業と積極的につながり、皆さんの知恵や力を取り入れていく。そして、地域の資源や個性を、みんなで磨き、みんなで支えていく「もっと輝く長浜」をめざし、作り上げていきたいという思いを込めている。子どもたちが誇れる長浜を築くために、この「開かれたシビックプライド」のもと、「つながりが、まちの力になる」という理念を胸に、皆さんと一緒に挑戦し続けていく。
- ・もう一つの重要なテーマである「策定後の周知方法」についても、議論いただきたいと考えている。計画は、策定して終わりではなく、計画に込めた思いやビジョンが、市民一人ひとりの心に届き、自分たちのこととして共感を得られて初めて、生命(いのち)が吹き込まれるものである。「どうすれば市民の皆様ワクワクしてもらえるか」「どのような伝え方をすれば、長浜の未来に希望を感じてもらえるか」。皆様の知恵をお貸しい

ただきたい。

- ・これまでの議論の集大成として、未来の長浜を創るための力強い後押しをいただくようお願い申しあげる。

(3) 議 事

①総合計画基本構想（案）について

【意見・質疑等】

●めざすまちの姿について

(委員)

- ・めざすまちの姿、基本構想の7つの輝きを拝見して思いついた委員案「ほほえみと ころみが あふれるまち、長浜」を提案させていただく。「みんなが主役」であったり、「住みやすいまちの姿」というのは見えてきたので、そこにどのような未来図があるのかというところで、シビックプライドの見える化を表情として、「ほほえみ」という表現と、地域の皆さんのよりよくしたいという思いを「ころみ」として、豊かさや活気というのを「あふれる」という表現で書かせていただいた。

(委員)

- ・以前の審議会で申しあげた意見、あるいは審議会以外で個別に申しあげた意見についても、しっかり取り入れていただき、今回の案としてまとめていただいたと理解しているので、まず感謝申しあげたい。
- ・特にこれまで申しあげていたのは、基本構想案の「まちづくり政策の7つの輝き」についてである。これは、「こども若者」、「健康・医療・福祉」といった分野を単に並べただけでは、分野整理にとどまってしまうため、「めざすまちの姿」をしっかり示した方がよいという趣旨であった。
- ・今回、例えば「こども若者を主人公にする」や、「歴史や自然のある、人が集まるまち」といった形で、まちのめざす姿を描いていただいている点は、大変よいと思っている。
- ・それから、今回新たに加えていただいた27ページの「めざすまちの姿の実現に向けて」について、この計画を作って終わりではなく、毎年度きちんと評価し、その結果を政策編成や予算編成につなげていくことが非常に重要である。その考え方をしっかりと本文の中に位置づけていただいたことは、大変意義があると思っている。この点については、ぜひ審議会の答申の中にも盛り込むべきではないかと考えている。
- ・「めざすまちの姿」については、前回十分議論できていない部分もあり、踏み込んだ意見は申しあげにくいですが、大きく2点が重要だと考えている。1つは、今だけではなく将来につながるという視点である。次の世代、将来を担う世代にどのようなまちを残していくのかということをしっかり考える必要がある。経済団体等でも「将来世代のためによき祖先であるよう努力していきましょう」という話をしているが、未来志向の思いが伝わる表現が望ましいと思う。
- ・もう1つは、「実感」である。さまざまなランキング等があるが、実際に住んでいる人

が「住みやすい」と実感できることが何より大事だと思う。数字上の評価だけでなく、生活の中でそれを感じられるかどうかが重要である。「将来につながる思い」と「実感として感じられるまち」、その両方が込められたような「めざすまちの姿」であれば非常によいのではないかと考えている。

(委員)

- ・総合計画基本構想において、バックキャスト、ワーキンググループなど意味合いが伝わりづらい点があるので、用語解説や注釈があれば、誰もが読めるものになるのではないかと思った。

(事務局)

- ・提案いただいた用語集について、付属資料の中で、より分かりやすく、伝わりやすい形で整理させていただきたいと考えている。

(委員)

- ・めざすまちの姿の案や、委員から提案いただいた資料の中にも魅力的な文言が多くあった。最初の3案の中から選ぶという点では、私は3番がよい。
- ・「みんな」という要素や、「つむぐ」という言葉から長浜らしいイメージが膨らみ、皆さんが力を合わせて取り組んでいく絵も浮かぶと思った。委員から提案いただいた案も非常によく、「こころみ」や「ほほえみ」という言葉の響きが柔らかく、子どもから高齢者まで幅広くイメージが広がる点に魅力を感じた。3番とは申したが、今回提案いただいた案のよい表現も取り入れていただけると大変ありがたいと考えている。

(委員)

- ・「つむぐ」「つながる」という言葉に非常に惹かれている。4案すべてよいと思うが、全体的に「まち、長浜」という表現で統一されている点について、何かルールがあるのか。必ずしもその形にする必要はなく、並べる際に揃えたという理解でよいか。その上で意見として、「つながる」という案もよいが、キャッチコピーとしてはやや長いという印象がある。主語である「みんなで」といった言葉を省き、動詞から始める形にする、「つむぐつながる未来を描く長浜」といった表現にするなど、印象に残るのは短い言葉のような気がする。どれが悪いというわけではないが、「まち、長浜」という統一のルールがあるのか、また主語が必要かどうかについては検討の余地があると思う。

(委員)

- ・3案の中では3番がよい。「つむぐ」という言葉は一度聞くと印象に残りやすく、普段あまり使わない言葉だからこそ引っかかりがあり、記憶に残る点がよいと感じた。
- ・「まち、長浜」や「みんなで」という表現には一定のこだわりがあると伺っていたので、「みんなで作り上げる」という意味合いから、「みんな」という言葉は入れたいという意図かと思いつつも、表現としては外した方がすっきりするのではないかという思いもある。それから、「長浜」と入れなくても、長浜を連想できる表現の方がよいのではないかとも思っていたので、その点でも「つむぐ」という言葉はよいと思った。また、「ほほえみ」という言葉の柔らかさや響きもとても素敵で、ロゴとして日常的に目に入

ればいいなと思っていたので、優しくふわっとした言葉がよいと感じていた中で、「ほほえみ」という表現も印象的であった。「ほほえみ」から仏像も想像したので、素敵な言葉だと思う。

(委員)

- ・すべての案が素晴らしく、決めるのは難しいと感じている。その中でも「こころみ」という言葉には惹かれるものがある。シビックプライドの観点で考えると、みんなが主役となって作り上げていくという点が重要だと思うし、3番の「みんなでつむぐ」という表現はワードとして非常に魅力的だと感じている。そのため、3番には特に惹かれている。
- ・一方で、「みんなでつむいでつながって未来を描く」という表現については、「つむぐ」と「未来を描く」がやや重複している印象もあり、もう少しシンプルにできないのではないかと感じた。例えば「未来をつむぐ」といった表現でもよいのではないかと思う。「こころみ」を入れると、「みんなでこころみ未来をつむぐまち」など、いくつかの言葉を組み合わせながら、よりシンプルでキャッチーな表現に工夫できるとよいと感じた。

(委員)

- ・京都市の総合計画を見ると、めざすまちの姿が1つではなく、4つほど掲げられており、複数あってもよいのだと感じた。例えば、第1節では「歴史と文化を介して人間性を回復できるまち」「自然への畏敬と感謝の念を抱けるまち」「自他の生をともに肯定し尊重し合えるまち」と「回復（かいふく）」という難しい言葉も使っていたり、複数あってもいいのかと思っていた。今後12年間使うことを考えると、最初は盛り上がりながらも次第に当たり前になってしまう可能性もあり、もったいないと感じる。常に問いかけとなり、新鮮な気持ちになれるような言葉を掲げることが大切ではないかと思った。以前の議論でも、それを見たときに「できているだろうか」「未来につながっているだろうか」と問い直せる言葉が望ましいという意見があり、その点は重要だと感じている。
- ・3つの案はどれもよいと思ったものの、口ずさみにくい、記憶に残りにくい印象もあるため、大人から子どもまで自然に口にできるキャッチフレーズのような共通言語になればよいと思う。
- ・さらに、「活気」や「豊かさ」を表す言葉として、水の用語などで「あふれる」という表現は長浜らしさがあると感じた。「つむぐ」は糸を連想させ、「あふれる」は水を連想させるなど、長浜らしいイメージにつながる言葉があると、多くの人に親しまれるのではないかと思う。

(委員)

- ・言葉として「つむぐ」「未来」「ほほえみ」「こころみ」といったキーワードはどれもよいと感じた。それらを踏まえて、「みんなのほほえみとこころみで未来をつむぐまち、長浜」あるいは「みんなのほほえみとこころみでつむぐ未来、長浜」といった表現も考えられると思う。
- ・総合計画では将来について語るため、「未来」という視点は重要ですし、未来に挑戦す

る意味で「こころみ」という言葉も非常によいと感じている。また、「ほほえみ」という言葉には、現在の社会や世界情勢が殺伐としていて、また、日本でも地方と都市の二極構造の中で、外から長浜を見た時に、長浜には自分のペースを大切にできるよさがあるのではないかと思う。都市では都会のスピードに合わせなければならない生きづらさがあるが、自然環境にも恵まれ、外からの人と内の人に関わり合う中で、「ほほえみ」という温かさが伝わっていくまちであればよいと感じた。

(委員)

- ・ キャッチコピーである以上、皆がありがたい姿を端的に表現されていることは重要だと思う。ただ、あまりに短くすると、どこにでも当てはまる表現になってしまう懸念がある。長浜らしさを感じられることが前提として必要だと考えている。その観点から見ると、1番と2番の案は汎用的で、他の地域にも当てはまりやすい印象がある。そのため、皆さんが推している3番と新たな案を軸に検討していくのがよいのではないかと思う。また、ここまでの話を伺った時に出てくると言葉は、「みんなで」「未来」。あとは、長浜の歴史に基づいた未来の発展という視点もあった。そのあたりを盛り込んだ表現にすることは簡単ではないが、どこかに長浜らしさを感じられる、歴史だと思うが、その上で、高齢者から若者まで幅広い世代にとって身近に感じられる言葉になればよいと考えている。

(委員)

- ・ 皆さんの意見を伺う中で、一定の方向性は見えてきているという印象を持った。最初の3案については、比較的3番に支持が集まっているように感じている。また、委員から提案のあった、「こころみ」という言葉にも関心が寄せられていると受け止めている。1点確認であるが、前回の総合計画で用いられていた「チャレンジ&クリエイト」はキャッチフレーズとして位置づけられていたのか。今回はそのようなキャッチフレーズは設けず、「めざすまちの姿」が全面的に市民に提示される形になるという理解でよろしいか。

(事務局)

- ・ 前回は「めざすまちの姿」に加えてキャッチフレーズを設定しており、「チャレンジ&クリエイト」はキャッチフレーズに該当する。今回の次期総合計画については、キャッチフレーズは設けず、「めざすまちの姿」のみを掲げる形で検討している。

(委員)

- ・ 前回の「めざすまちの姿」は何だったのか、あまり覚えていないということは、外に出てくる言葉が大事ということである。
- ・ 今回は、キャッチフレーズなのか、「めざすまち」なのか、言い方の違いはラベルの違いに過ぎず、市民に共有され、広く表に出ていくのがこの言葉である、ということになると思う。その観点からすると、口ずさめることや、やや長いのではないかという指摘にもあったように、言いやすく記憶に残りやすいシンプルさを持った言葉に仕上げていることが重要だと感じた。

(委員)

- ・各ページの作り方についてであるが、読み物として成立している、よりよいのではないかと感じた。シビックプライドが十分にある方や長浜に詳しい方であれば、1ページごとの独立した情報でも「そうだよね、うちのまちはそうだよね」と受け止められると思う。一方で、なぜこのページの構成になっているのかという点について、もう少し説得力や物語性があってもよいのではないかと感じた。「めざすまちの姿」が1つのクライマックスとなり、皆さんの思いが収束していくような構成があるとよいと思う。項目としては整理されているが、ページごとのつながりや、「めざすまちの姿」をつむいで行くのかというストーリー性が見えると、よりずっと理解できる内容になると思う。今後、概要版などを作る際には、そのエッセンスが活かされるとよいと考えている。そのためにも、まずは骨格となる部分、いわばストーリープロットのようなものを整理しておく、「なるほど」と納得しやすくなり、後々の共有方法に繋がるデザインになっていくのではないと思う。

(委員)

- ・16ページの「行政経営方針」に方針1.2.3があるが、これは既存の市の方針に基づくものがそのまま掲載されているのか。それとも今回新たに打ち出されたものなのか。

(事務局)

- ・かつては、行政改革大綱といったものが存在していたかと思う。現在、長浜市としては、いわゆる行政改革や経営方針を定める計画を単独では持っていない状況にある。そのため、これを長浜市の総合計画の中で最上位に位置づけ、基本構想の中で打ち出し、行政の経営体としての考え方をこの中に示し、その後の具体的な政策へとつなげていく原動力として、方針を打ち出している。既存のものをそのまま掲載しているのではなく、ここで新たに位置づけを行っている内容になる。

(委員)

- ・1点気になる点がある。方針3で「地域生活圏の形成」という言葉が出てくるが、比較的新しい概念なのかと理解している。長浜市として、この「地域生活圏」をどのような概念として捉えているのか、またどのような意味合いで用いているのかが分かりにくく、ここで突然出てくる印象があった。そのため、この点について確認させていただきたい。

(事務局)

- ・確かに「地域生活圏」については明確な定義づけがない部分もあり、分野によって捉え方が異なる概念だと考えている。基礎自治体としては、本来、基本的な生活権や経済的な権利は一定の範囲で一致しているべきものと考えているが、実態としては必ずしもそうっていない面もある。特に経済分野では、基礎行政体の枠を超えて活動が行われていることは周知の事実だと思う。一方で、生活者・市民の視点から見ると、市の単位よりもさらに細分化された地域単位で生活が成り立っている側面もある。長浜市は県内でも最大規模の面積を有しており、その中で地域ごとに生活圏や活動圏はより小さな単位で形成されていると考えられる。そのため、政策分野ごとに適切なエリア設定も異なっ

てくることから、現時点で明確に一つの定義として整理できているわけではない。そうした柔軟な権利や生活圏に対応しながら、行政として実施すべきこと、また可能な範囲で支えていくべきことを含めて表現として用いているものである。

(委員)

- ・「地域生活圏」は市の中のもう少し小さい単位をさすのか、例えば福祉圏域のようにもう少し広域に自治体を巻き込んだ範囲をさすのか、それ自体も分野によっていろんな形があるという捉え方か。

(事務局)

- ・その通りである。本来であれば明確に定義できることが望ましいと考えているが、分野によって範囲が変わってくる部分があると認識している。行政サービスの面では、すでに隣の米原市と一部事務組合も組んでいる分野もあり、観光などの分野ではさらに広い彦根市、敦賀市と連携しているケースもある。そのように、分野ごとに対象となるエリアが変化してくるため、このような表現となっている点について理解いただければと思う。

(委員)

- ・8、9ページの年表に「アウクスブルク」は載っているが「ヴェローナ」は載っていない。

(事務局)

- ・追加させていただく。

(委員)

- ・この冊子を読む対象をどのように設定されているのか。

(事務局)

- ・基本的には長浜市に住む市民の方を対象と考えている。

(委員)

- ・高齢の方もいるが、基本的には若い人に読んでいただきたいという想定だと思う。これはまだ編集途中の段階ということを理解した上で、これだけを見ると文字が小さくて文字数も多く、お年寄りには小さく、若い人にとっても文章が長く、最終的に「字がいっぱいある」で終わってしまうような気がする。対象を改めて考えたうえで、どのように編集するかは見直された方がいいと思う。

(事務局)

- ・基本構想という位置づけで、今後の周知の方法の中で扱っていく部分もあると思う。お伝えしていくにあたっては、まず基本構想は長浜市の最終議決事項になるが、その中で位置づけを踏まえつつ、より分かりやすい手法、例えば概要版の作成なども含めて検討していく必要があると思う。そうした点については、編集の工夫としてさらに検討させていただきたく、より分かりやすくお伝えする方法についても、この後の議論の中で意見を頂戴できればと思う。

(委員)

- ・めざすまちの姿の3番に意見が集中しているということで、3を柱にしながら、委員か

ら提案いただいた「ほほえみ」や「こころみ」といった要素をその中に加えられるかどうか、また全体の長さを少し調整できるかどうかといった点について、一旦会長・副会長及び事務局で預からせていただき、最終的な形を整えるということによいか。

《 一同了承 》

●策定後の総合計画基本構想の共有手法について

(委員)

- ・せっかくよい総合計画ができて、知られなければ意味がないという点が重要だと思う。今回の資料も内容は充実していますが、先ほどの意見の通り文字量が多く、読みづらいところがあると感じた。
- ・前回の概要版はとてもキャッチーで、若い人に向けた印象が強く伝わりやすい。長浜本というネーミングもよく、デザイン性を重視したこうした概要版は非常に有効だと思う。また、動画の活用も重視していただきたい。SNS も含め、今は若い世代の多くが動画で情報を得ることが中心になっていると思うので、例えばこの冊子にQRコードを付けて、該当する活動の動画が見られるようにしたり、その分野で活動している人が見えるような形にするのがよいと思う。「この分野ならこの人が詳しい」「こういう取組をしている」といったことが動画で具体的に伝わると、より理解しやすくなると思う。
- ・現在の写真もよいが、やはり動画や生の声といった形で知ってもらうことで、長浜のことも知ってもらえ、そこから基本構想にも興味を持ってもらえるのではないかと思った。

(委員)

- ・今回作っていただいた全体の基本構想の中では、シビックプライドが中心にあって、その中でも17ページあたりにある「7つの輝き」が、皆さんに一番お伝えしたい部分なのかなと思う。そのため、この「7つの輝き」という点にもう少し着目して、「7つ星」や「7色」「北斗七星」などいろいろな展開ができるのではないかと感じた。「7つの輝き」を前面に押し出したい、というのが骨子にあるのであれば、「長浜の7つ星ってなに？」というような、若い方にも年配の方にも響くような、そうした作り込みがあるとよいと思った。

(委員)

- ・単純にキャッチコピー、言葉をどうやって知ってもらうかを考えてきた。
- ・例えば、街の入り口の看板に書くとか、出ていく時や帰ってきた時に必ず目に入るようにすれば、自然と覚えてもらえるのではないかと思う。常に触れられる場所であれば、キャッチコピー自体は伝わりやすくなるのではないかと考えた。また、巻き込み型の取組として、ティッシュや、メッセージが書かれた配布物、防災用品などを、子どもや学校、地域に配る、PTA などに「こんなことをやっているらしいよ」と広めてもらう。その際に、ただ配るだけではなくて、子どもたちに対しても「長浜市はこういうことをやっているんだよ」とか、「こういうキャッチコピーでこれから12年やっていくらしいよ」

といったことも一緒に伝えられるような内容にできるといいと思う。そうすることで、受け取った側も「そんなことやっているんだ」「知らなかった」と気づききっかけになるし、今すでにいろいろ取り組んでくださっている内容の一部が伝わることで、「へえ」と思ってもらえ、長浜市の行政に興味を持ってもらえる入口になるのではないかと感じた。

- ・単純に、封筒にいつも書いてあるとか。ロゴマークのようになっているとかが。コンテスト形式で、子どもは絵が好きなのでキャッチコピーを表す絵を募集したり、広報の表紙に文字だけ書いてもらおうとよいかと思った。
- ・冊子について、長浜本は素敵だと思うが、シビックプライドについて書いているので、そこにキャッチコピーとシビックプライドの絵があったら、それがスタートで、そのような見やすさの内容で、入口だけを提示して、「これは何だろう」と思って調べてもらうような形の本でもいいのではないかと考えた。
- ・読み物が欲しいとのことだが、歴史のことはもう少し知りたいと思う。長浜市のシビックプライドを持てる理由は、やはり歴史があるからだと思っていて、例えば、デイサービスができる前に、自分たちの地域で昔から、デイサービスのようなことを、自分たちの力でやってきたと知った。そのような話を知ることによって、「自分たちにもできるんだ」という自信につながり、そうした歴史的な背景を知ることによって、より面白くなるのではないかと考えた。
- ・また、キャッチコピーについては、ロゴマークのように、コンテスト形式で募集するのもよいのではないかと考えた。子どもたちも参加しやすく、候補を表紙に並べて選んでももらうような形も考えられると思う。
- ・それから、この「7つの輝き」はとても素敵だと思う。シビックプライドの全体像があるので、そこにキャッチコピーとシビックプライドの位置づけを端的に示しておき、細かい説明はあえて入れず、「これは何だろう」と思ってもらいながら読み進めてもらう構成でもよいのではないかと考えた。
- ・長浜市の方は県内外で毛筆の賞を取られるような方も多いと思う。滋賀県の書道には少し特徴があるので、そのあたりも含めて、長浜の書道はすごいという認識は皆さんお持ちだと思う。その上で、目を引くような、絵のようなものを書き表現してみるのもよいのではないかと考えた。

(委員)

- ・日経新聞の「私の履歴書」という名物コラムは、書いている人がタイトルを自分の手で書くというのが慣例になっていて、同じタイトルでも書く人によって字が全然違うという特徴がある。そのような形で、キャッチフレーズも、うまい人が書くというものもあるかもしれないが、市民の方がそれぞれ書いていくというものも1つのアイデアとして面白いのではないかと考えた。
- ・確認であるが、このシビックプライドについて、これまでの長浜市におけるシビックプライドがまとまっているような読み物はあるのか。

(事務局)

- ・まとまったものはない。以前は「市勢要覧」のようなものがあり、主に外から視察に来られた方などに配布していた。長浜市の簡単な年表や写真入りで紹介する資料だったと記憶している。現在は、「ない」という認識である。そのため、今回、年表を付け加えるべきではないか、あるいは振り返る意味でもそうした要素が必要ではないかと考えている。
- ・また先ほど質問があった、対象は市民の方ということではあるものの、一部には外から来られた方にも案内として渡せるようなものがあるとさらによいと思う。
- ・基本構想そのものがその役割を担うかは別としても、そうした資料があるとよりよいと感じている。

(委員)

- ・このシビックプライドの7つの柱があって、それぞれまちのことを紹介している形になっているので、そこを「人」に置き換えると、もう少し親しみやすく興味を持たれやすいのではないかなと思う。分野ごとに、それぞれで活躍して実際にそれを実現している人をピックアップして、その人の活動を紹介するような形にした上で、例えば専用のサイトを作るのか、動画にするのかは別として、見に行けるようにすると、より分かりやすくなるのではないかなと思う。
- ・私の業界は、いかに建設業界に人を巻き込むかという活動を業界全体で行っている。先日、東京で全国の建設業の会社を集めてピッチコンテストをその会議の中で開催した。各地域の会社から1人代表が出て、近畿や関東などで選抜され、勝ち残った人が最後に東京のホテルに集まって5分間のプレゼンをするというものであった。そこでの話を聞いていると、「会社のプライド」ではなく「自分のコンストラクションプライド」のようなテーマで話している方もいて、非常に個人の体験に根ざした内容が多く、感動するものであった。そういった意味で、コンテスト形式のようなものを取り入れて、各地域の中で高校生でも誰でもいいので、自分のシビックプライドに関連することを話してもらう場を作ると、体験としても残るのではないかなと思う。
- ・人だけでなく会社でもよくて、この7つの分野に取り組んでいる隠れた長浜の優良企業を見つけて、コンテストのような形で選び抜いた企業だけを集めて、市が、合同説明会や就活イベントを開き、就活生もシビックプライドに則った企業を見つけられる、といった形も考えられると思う。
- ・学生時代を思い出しても、シビックプライドを知るために資料を読むということはあまりなく、シビックプライドを活用したイベントがあって、その中で参考資料として自然に目に入るという形の方がよいのではないかなと思った。

(委員)

- ・私は市職員が語られるべきだと思っている。教育は教育、福祉は福祉、医療は医療、また自治会の会長さんが集まる場など、それぞれの分野で様々な会議や協議の場があると思う。市長さんがそうした場で話をされていると思うが、職員の方々も同じ思いを持つ

で、「こういうまちを目指している」ということをしっかり語られる存在であるべきだと思う。そうしたことが、まず基本として非常に大事なのではないかと思った。

(委員)

- ・ 広報ですが、今まであるものだと「今までの延長」として見られてしまっていて、あまりキャッチーではないし、せつかくここでリニューアルというか、これからの12年が始まるのに、もったいないと感じている。
- ・ 12年という時間の長さを考えると、むしろ「完成しているもの」ではなく「これから作る余白」がすごくあるとあっていて、例えば1年目のポスターは12分の1しか書かれていなくて、あとは全部真っ白。「ここに色を加えるのはこれからの皆さんです」。2年目には少し埋まってくるけれど、まだまだ余白がある。そうやって「これから埋めていく」こと自体をPRにするというのも1つの方法だと思う。例えば空白を使って国語の問題のようにしたり、参加型で関わってもらうことで、「みんなでつむぐ」という表現にもつながるのではないかと思う。
- ・ 「長浜の未来の辞書」のような形でも面白いとあって、「あいうえお作文」で「“か”が集まっているんですけど“さ”がまだ足りません」「“ま”がもう少し欲しいです」といったやりとりが生まれることで、市民とのつながりもでき、「みんなで創る広辞苑、長浜版」でもいいし、色んなものが集まるのではないかと思った。
- ・ 以前どこかで一度、くじのような取組がすごくよかった印象があるのですが、手元に残らないまま終わってしまっていて、市民の方にはあまり知られていないのではないかと思う。そこで、「ロミくじ(試みくじ)」のようなものを作って、どういう試みをすればいいか悩んだ時に引くと、長浜の先人の言葉やヒントが出てくるような仕組みも面白いと思う。そうするとシビックプライドと若者、歴史のインタラクションが生まれるのではないかと思う。そのロミくじをみんなで作るワークショップをして、その結果を発表するコンテストのような形にすれば、12年かけてストーリーができていくような仕掛けにもなるのではないかと思った。
- ・ また、最近山に登るのですが、YAMAPという会社がフットパスを載せてくれるので、長浜に来る方のYAMAPに関しては、キュレーションしていくと、散歩コースや山の楽しみ方を紹介している事例もあるので、YAMAP長浜版を企業とタイアップして、長浜の里山や登山ルート、景色などを発信するのもよいと思う。
- ・ 最後に、「3万660の輝き」と提示すると「何それ」となるんですが、7つの輝きが12年365日続くとすると「3万660の輝き」となるのですが、一見すると何それとなるようなフレーズにしておいて、市民や職員がそれを語る“キーワード”として持つのも面白いのではないかと思った。

(委員)

- ・ ウェブで特設ページのようなものを作るのが1つあるとあっていて、そこにどのようなものを載せるかを考えたときに、先ほどのデザインの話とも関係するが、3ページの黒壁スクエアの入口の写真を見たときに、長浜の玄関口としてここが出てくるんだと感じ

た。そうすると、長浜のことを知りたい人や、実際に長浜に住んでいてもあまりよく知らない人にとって、その入口から入っていった先の中身が、より分かりやすく、人やモノが見えてくると面白いのではないかと思った。この冊子も、1ページ目に入口があるように、長浜市の情報発信の入口としてホームページがあり、その中に特設サイトがあって、入口のさらにその中に7つの扉がある、という構成が考えられると思う。それぞれの扉の中にどんなコンテンツがあるかは、最初から揃っていないなくてもよくて、「こんな面白い人がいる」「こんなよい素材がある」といった情報を、長浜の隅々まで把握している職員の方々がアイデアを出しながら、随時更新していく形でもよいと思う。

- ・また、地域の中にいると気づきにくい魅力も、外からの視点で見ると珍しかったり、「長浜ならではの」と感じられるものがあるかもしれないので、外部の人に紹介してもらうのも一つの方法だと思う。
- ・そうやって7つの分野ごとのコンテンツを少しずつ増やしていくことで、総合計画にも自然に触れることができ、地域の人も長浜のよさに改めて気づき、外の人にもそれに触れていく、という流れが生まれると面白いのではないかと思った。

(委員)

- ・基本構想の冊子について、一般の市民の方が手に取ったときにどう捉えられるかを考えると、少し言い方は悪いかもしれないが、「行政の広告」のように見えてしまうのではないかと感じる。市民の方が「読んでみたい」と思ってもらえるかというと、少し硬い印象があると思う。ただ、ここでいう「硬さ」は内容というよりも、「何を目的に読むのか」が分かりにくいという点にあると思う。市民の方にとっては、「基本構想」であること自体よりも、「何年後に自分たちのまちがどうなっているのか」が分かるかどうかの方が重要なのではないかと思う。そう考えると、基本構想と書かれているが、いつから始まっていつを目標にしているのか、そのときにどうなっているのかという時間軸の感覚が少し読み取りにくいと感じる。
- ・例えば表紙に「何年から何年まで」や「何年後の長浜の未来像」といった副題を入れるなど、「何を目的に読んでほしいのか」が明確に伝わる工夫があると、同じ内容でも読んでみようと思ってもらえるのではないかと思う。
- ・19ページ以降の政策内容と目標値の部分は、この基本構想の中でも重要なところだと思うが、「基準値」「目標値」という言葉が市民にとって直感的に分かりやすいかという点は少し疑問がある。
- ・行政として必要な指標であることは理解できるが、市民にとっては「今がどういう状態で、何年後にどうなっていてほしいのか」「こうなっていることを目指します」というのが伝わることだと思う。内容自体はよいので、ラベルや表現をもう少し行政寄りではなく、市民目線に寄せる、それが冊子全体にわたって修正できるポイントだと思う。「読みたい」と思われるか、「行政の文書だな」と思われるかの分岐点にある部分だと思う。
- ・広報について、前回から多くの意見が出ており、それを実行するだけでも大変だと思う。

ただ、「全市民が参加する」という観点で考えると、学校などを通じて若い世代や働く世代には伝えられる一方で、山間地の高齢の方々には少し伝わりにくいのではないかと感じる。広報誌などで一定の情報提供はできると思うが、もし高齢の方にも何らかの形で参加してもらうことを目指すのであれば、もう少し山間地でアピールできる仕組みが必要かもしれない。例えば、移動販売など地域を回っている方々に協力してもらってチラシを配布するなど、別の手段も組み合わせていく必要があるのではないかと感じた。

(委員)

- ・そもそも「どう広めるか」を考えたときに、今あるキャッチコピーをそのままストレートに伝えても、12年という長い期間を前提にしていたり、多くの人に広く響かせようとしている分、逆に誰にも刺さらないのではないかという懸念がある。
- ・例えばポスターにキャッチコピーが「いつまでも住みよいまち、長浜」と大きく書かれていても、それを見てどういう行動変容だったり、感じ方をするかだったりと思った時に、実際にはあまり変化を生まないのではないかと感じた。今あるコピーはあくまで12年間の大きな方針として位置づけた上で、ターゲットごとに刺さるような表現や手法、言葉の肉付けは別で考えていく必要があるのではないかと思う。
- ・シビックプライドを高めるという視点で考えた時に、「住みたいまちです」と言われるだけでは、すぐにシビックプライド誇らしいという気分にならないと思う。ターゲットが自分のまちを誇りに思うように考えてもらうにはどうすればよいかと考えた時に、市民自身がまだ気づいていない長浜の魅力を実視化して、それを適切な形で届けるといった発想の方が、よりよくなると感じた。
- ・また共有方法の一例として、山間部の高齢の方々にどう届けるかという点については、私自身、山間部の町で育った中で、ポスターなどを見る機会は少なかったが、町内放送で地域の様子や防災の話が流れてくることはよくあった。
- ・町民参加型のみんなで楽しむラジオ放送のような形で、町内放送の一部を使わせていただくなどして、このプロジェクトの情報発信をする、町民の方にも協力してもらいながら一緒に楽しくやって行く、共同の作業ができると面白くなると思った。こうした発想で共有方法を考えていけるとよいのではないかと感じた。

(委員)

- ・最近「文字を読まない」という話もあるが、一方でポッドキャストやラジオのような音声メディアが最近見直されはじめているので、先ほどの町内放送の話ともつながるが、声のメディアで改めて伝えるというのは、より広い範囲の方を想定したコミュニケーションとして有効ではないかと感じた。
- ・この冊子については、行政としてはこうした硬めの文章で作らざるを得ない部分はあると思うが、これだけではやはり不十分というのは明らかである。そのため、これとは別に、市民が興味を持って読める「読み物」のような形のものを用意する必要があるのではないかと思う。それを簡易版と言ってしまうと、ダイジェスト版になってしまうので、読んでいて面白い、物語性のあるものにすることが重要だと感じる。

- ・シビックプライドをまとめたものがあるかと議論があったが、例えば、「みんなでつむぐまち」という方向性であれば、みんなでつむいできた長浜の歴史を知り、これからみんなですればつむげるのかを問いかけるような構成の読み物にすることもあのかなと思った。
- ・また、発表の場を設けるという点も非常に重要だと思う。ピッチのような形式でなくても、「こんなことをやりたい」という思いを発信できる場があることで、やりたい人同士がつながり、つながって行くことで実現していく可能性がある。場がなければ発信もつながりも生まれないので、そうした機会を公的に設けていくことは有効だと思う。
- ・最後に、今後この「めざすまちの姿」がロゴとして展開されていくのであれば、話と、ロゴとして出来ている物が同じものであるというのがわかるように、冊子・読み物・ロゴなどのデザインや表現に共通性を持たせることも重要だと思う。
- ・冊子の中に、ドラフトという形で「7つの輝き」が塔のように昇華していく図があるが、それがシンボリックなものとして出るのであれば、それと「めざすまちの姿」の言葉が連動していて、マークやシンボルに統一性があると、硬い文章の基本構想と読み物が繋がっているんだ、同じ話なんだということが、市民にも伝わりやすいと思った。分かりやすい入り口から入って、最終的に深い文章まで情報がつながっているということを保っているのも大事だと思う。

(4) 報 告

①過疎地域持続的発展計画の変更について

【意見・質疑等】

(委員)

- ・地場産品消費促進事業で、みずどりステーションとあぢかまの里で、県の現状だともう少し高いと思ったが、長浜市の数え方と滋賀県の数え方は違うのか。それとも、県の数字を載せているのか。
- ・滋賀県で一番人が来るのはラコリーナで、3番目が黒壁という中で、次に長浜はどこかと思って見たところ、あぢかまの里で、その際は44万人と書いてあったのが、今回の資料では32万人と記載されていたので、年度が違うのか、数え方が違うのか、少し気になり確認させていただいた。

(事務局)

- ・みずどりステーションとあぢかまの里の利用者数は、市で把握している数字である。
- ・県の観光入込客数の統計だと思うが、各市町が県の方に報告している数値を取りまとめたものだと思うので、元となる数字は同じかと思う。年度と暦の年ですれていないという可能性はある。

議事終了、会議進行事務局へ

(5) その他

- ・ 答申の日程報告

令和8年7月24日(金) 16:00~16:30

- ・ 第5回審議会の開催日予定

令和8年10月上旬

- ・ 本会議の要点録を市ホームページに公開する。

(6) 閉 会

以上